

氏名	戸 谷 完 二		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 908 号		
学位授与の日付	昭和 52 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博位の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	諸種疾患の切除胃における慢性胃炎の病理組織学的研究		
論文審査委員	教授 小川勝士	教授 妹尾左知丸	教授 寺本 滋

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

外科的に切除された 220 例の胃の慢性胃炎像を疾患別・年令別に検討した。

腺萎縮と腸上皮化生は平行な関係にあり、リンパ滲胞、細胞浸潤は現在萎縮性変化が進んでいる部位で著明で、加齢と共に幽門部より体部に移行する。線維化・粘膜筋板の変化は萎縮性変化と共に幽門部より胃底部に向い強くなる。

胃潰瘍と十二指腸潰瘍は年代別にみても前者の方が萎縮性変化が強く、分化型早期胃癌と未分化型早期胃癌では前者に強い。胃潰瘍と未分化型早期胃癌はほぼ同程度であり、早期胃癌と進行胃癌もほぼ同程度の萎縮性変化を呈する。

リンパ滲胞・細胞浸潤の病変は、幽門部では十二指腸潰瘍・胃潰瘍・未分化型早期胃癌・分化型早期胃癌の順に強く、体部では逆の順であり、早期癌・進行癌はほぼ同程度である。粘膜筋板の変化、線維化は幽門・体部とも分化型早期胃癌・未分化型早期胃癌・胃潰瘍・十二指腸潰瘍の順に強く、早期癌・進行癌はほぼ同程度である。

以上より、いわゆる随半性胃炎と呼ぶのは妥当でなく、胃の萎縮性変化は諸種病変により先行する。

#### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は 220 例の切除胃につき腺萎縮、腸上皮化生、炎症反応の部位と強さを年令別・疾患別に検討し、萎縮性変化が加齢と共に幽門部より体部に移行し、疾患別に強弱のあることをみたものであるが、従来その本態に諸説のある萎縮性胃炎が諸種病変より先行するものとの知見を得たことは特に早期胃癌との関係を考察する上に価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。